令和8年（2026 年）10 月 16 日（金）第 288 号

横須賀市立大塚台小学校学校だより

大塚台の風



校長　山崎　亨

運動会スローガン「笑顔と絆の大塚台メモリー」に向けて・・・

後期が始まり、学校では運動会に向けた練習がスタートしています。校庭やアリーナには元気な声が響いており、どの学年の子ども達も張り切って活動しています。

練習では、徒競走や団体種目、2学年合同のダンス練習に取り組んでいきます。ダンスの練習では、音楽に合わせて手や足の動きを覚え、一つ一つの動きを丁寧に確認しながら練習しています。最初は少し難しそうにしていた子も、何度も繰り返すうちに少しずつ動きがそろい、笑顔を見せる姿も見られます。



また、隊形移動では、周りを見ながら素早く動き、友達と協力して取り組む様子が見られます。練習を重ねるごとに動きがまとまり、子ども達の自信にもつながっているようです。



運動会の練習は、体を動かす楽しさを感じるだけでなく、友達と力を合わせること、最後まであきらめずにやりぬくことの大切さを学ぶよい機会です。うまくいかないことがあっても、励まし合いながら挑戦する子ども達の姿に、日々成長を感じています。

これから本番に向けて、練習がさらに続いていきます。ご家庭においては、十分な睡眠や朝ごはんなど、体調管理へのご協力をよろしくお願いいたします。

運動会当日までの練習を通して、子ども達が友達と協力しながら自信をつけ、大きく成長していくことと思います。温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。

「競うこと」から学ぶこと

本年度の運動会では、これまでの運動会から一部内容を見直し、徒競走や団体種目に順位をつけ、そ

の結果を得点化する形に変更します。

近年、学校教育では「一人一人のよさを認めること」や「勝ち負けだけにとらわれないこと」を大切にしてきた面があります。本校でも、運動会において、子ども達が安心して参加し、自分の力を精一杯発揮することを大切にしてきました。

一方で、子ども達の成長を考えたとき、「競うこと」から学べることもたくさんあります。

「あと少しで勝てたのに……」

「次はもっとがんばりたい！」

「友達ががんばっているから、自分もがんばろう！」

「みんなで力を合わせて勝ちたい！」



こうした思いは、順位や勝敗があるからこそ生まれるものでもあります。

もちろん、足の速さや運動能力には一人一人違いがあります。だからこそ、「勝った子がすごい、負けた子がだめ」という考え方ではなく、競い合う中で、自分自身の力を伸ばしたり、仲間と協力したりすることに価値があると考えています。

徒競走では、自分の記録や順位に挑戦する。団体種目では、仲間と声を掛け合い、作戦を考え、力を合わせる。そして、勝ったときには喜び、負けたときには悔しさを味わい、その経験を次の挑戦につなげる。こうした経験もまた、学校教育の中で大切にしたい学びの一つです。

今回、団体種目の結果を得点化するのも、単に「勝敗をはっきりさせる」ことが目的ではありません。自分たちのがんばりがチームの得点につながることを実感し、学級や学年、そして学校全体で目標に向かって取り組む楽しさを味わってほしいと考えています。

今年の運動会が、子ども達にとって、競い合う楽しさ、仲間と協力する喜び、そして努力することの価値を感じられる一日となるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。

保護者の皆様には、順位や得点だけではなく、そこに至るまでの子ども達の努力や仲間との関わりにも、ぜひ温かい目を向けていただきたいと思います。

一人一人の挑戦に、大きな声援をお願いいたします。